

## 1 産地の概要

- ＜対象地域＞ 小牧市
- ＜対象品目＞ モモ・ブドウ
- ＜産地の現状・課題＞

当地域のモモは生産者数が49名、ほ場面積は16.4ha(JA尾張中央桃生産部会外の生産者を含めず)で、市場への共同出荷や農家の庭先販売等を通じて販売されている。ブドウは生産者数が7名、ほ場面積7.7ha(小牧ぶどう研究会外の生産者を含めず)で、モモに比べると規模は小さいが、大半の農家で後継者が就農し、世代交代が進んでおり、活気にあふれている。近年は、農業者の高齢化が進むとともに、若い農業者のいる経営体では大規模化が進み、春から夏にかけての生育期における労働負担の省力化が急務である。また、カラスの個体数の増加と栽培面積の減少によりカラスによる果実被害が、栽培を継続しているほ場に集中してきているため、対策が急務である。

## 2 検討体制

- ＜小牧市スマート農業推進研究会構成員と役割＞
- 生産者(技術検証、革新計画検討)
- ICTベンダー(技術検証、革新計画検討)
- 尾張農林水産事務所農業改良普及課(技術検証助言・分析、革新計画検討)
- JA尾張中央小牧東部営農センター(技術検証助言、革新計画検討)
- 小牧市地域活性化営業部農政課(事務局)



自律走行台車



テグス展張に使用したドローン



カラス追い払いに使用したスズメバチカラーのドローン

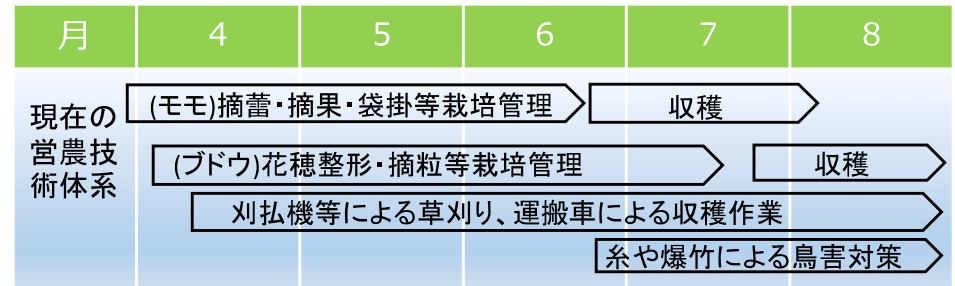


ドローンによる追い払いの様子

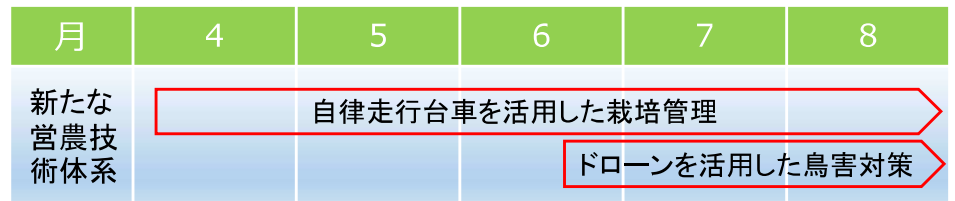
## 3 新たな営農技術体系への転換

＜目指す産地像＞

自律走行台車の導入により、収穫作業、除草作業、その他管理作業の作業負担が緩和される。ドローン等による鳥獣害の防止が可能となり、所得が確保され、農業者の営農意欲の向上につながる。



・自律走行台車・ドローンの導入



＜新たな営農技術体系の効果(検証結果)＞

- ◎自律走行台車を活用した栽培管理、ドローンによるカラス追い払い：果樹園での利用にはさらなる機能の追加や機器の開発が必要。
- ◎ドローンによるテグス展張：省力的展張が可能→マニュアル化を目指す。

＜新たな営農技術体系の今後の取組内容＞

取組主体	R 3	R 4	R 5～
生産者	自律走行台車及びドローンの機能評価・経営評価、事業計画検討		
愛知県尾張農林水産事務所農業改良普及課	自律走行台車及びドローンの機能評価・経営評価、事業計画検討支援		
小牧市地域活性化営業部農政課	自律走行台車及びドローンの機能評価・経営評価、事業計画検討支援		